

「表現未満、」文化祭

2018 SHIZUOKA

白熱!!! トークイベント!!!

「表現未満、」とは、特別な力のある人が作る特別な行為ではなく、誰もが持っている、自分を表す方法としての「表現」を、大切にしていこうとする活動です。本人が大切にしていることを「とるに足らない」と一方的に判断するのではなく、その行為こそが文化創造の軸であると考えています。「表現未満、」は、アートの手法を通して、そのひとの存在を認めていくプロジェクトです。

2018年11月に浜松市中心市街地にたけし文化センター連尺町がオープンしました。ここは、「表現未満、」の拠点であり、障害のある人の存在を顕在化し、様々な価値観を提示し、揺さぶり、対話する「場」を目指していきます。

2019年2月1日から3日の3日間「表現未満、文化祭」を行います。障害のある人たちの日常、家族知り合い、それぞれの人の中から多種多様に生まれている「表現未満、」を利用者（障害のある人々）、スタッフ、関係者が作り上げる「あるようでない」文化祭です。

開催概要

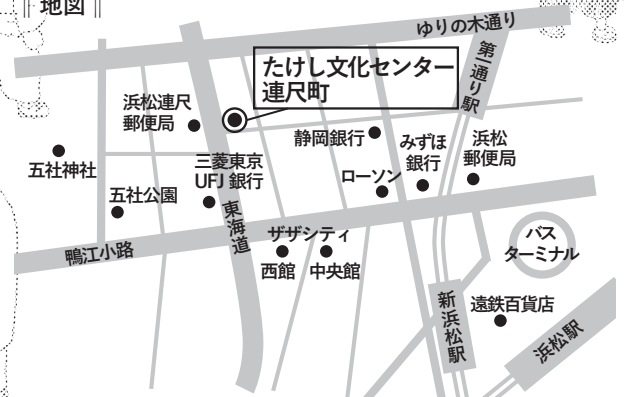
日程 | 2019年2月1日[金] ~ 2月3日[日]

総合受付 | たけし文化センター連尺町(浜松市中区連尺町314-30)

主催 | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

共催 | 静岡県文化プログラム

地図



2月2日[土] | 11:00 ~ 12:30

① 親亡き後をぶっ壊せ!



重度の知的障害者の親たちは一生子どもの面倒を見ていかなければいけないという呪縛に縛られています。「親なき後」とは自分たちが死んだ後のことまで心配する親の気持ちが表れた言葉です。しかし、重度の知的障害者は住まい方や生き方を本当に自分で選ぶことができないのか…。そして本人の、親の、家族の人権はどこにあるのか!? 考えます。

熊谷晋一郎 | くまがや・しんいちろう | 東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医

1977年生まれ。新生児仮死の後遺症で、脳性まひに。以後車いす生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児科心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生生活を経て、現職。著書に『リハビリの夜』(医学書院)など。

テンギョウ・クラ | てんぎょう・くら | 教師、コミュニケーター、ストーリーテラー

ヴァガボンド(放浪する者)を自身のライフスタイルとして、教師の活動をベースに国や地域を問わず移動と滞在を繰り返しフォト・ストーリーを制作している。滞在した地域の人々との交流を通じて在住者と来訪者の関係性に揺らぎを生み出し、そこに多様なコミュニケーションの可能性を見出す。大学での講演や旅の写真展の開催、現代アーティストとのコラボレーション、様々な文化を紹介するイベントの企画など、異文化交流をテーマにした活動を世界各地で展開。

久保田 翠 | くぼた・みどり | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 代表理事

2月2日[土] | 14:00 ~ 16:30

② 観光サミット～観光やっていますが、どうですか?～



様々な不利益な状況にある人をケアしている現場、社会的な課題を抱えている地域で、文化・芸術を通してその課題を顕在化している現場があります。「観光」をそれらの現場と社会との接点を作る取り組みと考え、これまでにない観光の形を議論するために「観光サミット」を開催しています。昨年度は「観光とは何か」をテーマに議論を行いました。今年度は観光を实践する現場の事例をもとに議論を行います。

小松理虔 | こまつ・りけん | 地域活動家

1979年福島県いわき市生まれ。報道記者、雑誌編集者、かまぼこメーカー広報などを経て2015年に独立。「ヘキレキ舎」を立ち上げ、さまざまな企画、制作、言論、地域づくりに関わる。単著『新復興論』が第18回大佛次郎論壇賞受賞。

里見喜久夫 | さとみ・きくお | 季刊『コトノネ』発行人/編集長、自然栽培パーティ副理事長

2012年に障害者の「働く」をテーマにした雑誌『コトノネ』の創刊に関わり、編集長を務める。2008年にドイツW杯を記念して、選手のいない写真集『06 GERMANY』を出版。絵本に、『ボクも、川になって』、『もんばんアリと、月』など。日本ペンクラブ会員。

上田伽奈代 | うえだ・かなよ | 詩人、詩業家、NPO法人こえとことばとこころの部屋 代表理事

1969年吉野生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ。『ことばを人生の味方に』と活動する。2003年大阪・新世界で喫茶店のふりをした拠点「コカールーム」をたちあげ、2008年西成・釜ヶ崎に移転。2012年、まちを大学にみたてた「釜ヶ崎芸術大学」、2016年「ゲストハウスとカフェと庭コカールーム」開設。大阪市立大学都市研究プラザ研究員。2014年度 文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞

③ 障害とアートと、その展示

レッツは障害者の存在自体を社会に顕在化させる事業を通してそこからさまざまな問いを投げかけ、皆さんに「他者」について志向してほしいと願っています。その方法として美術や芸術のフォーマットに当てはめて、展示や舞台も行ってきました。それは有効なのかそうでないのか、障害と展示、作品、展覧会といった可能性について、「今だからこそ」議論します。

山出淳也 | やまいで・じゅんや | NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事、アーティスト

1970年大分生まれ。PS1インターナショナルスタジオプログラム参加(2000~01)。文化庁在外研修員としてパリに滞在(2002~04)。アーティストとして参加した主な展覧会として「台北ビエンナーレ」台北市立美術館(2000~01)、「GIFT OF HOPE」東京都現代美術館(2000~01)、「Exposition collective」Palais de Tokyo、パリ(2002)など多数。帰国後、地域や多様な団体との連携による国際展開を目指して、2005年に BEPPU PROJECT を立ち上げ現在にいたる。別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合プロデューサー(2009、2012、2015)、国東半島芸術祭 総合ディレクター(2014)、おおいとイレンナーレ 総合ディレクター(2015)、「in BEPPU」総合プロデューサー(2016~)、国民文化祭おおいと2018 市町村事業アドバイザー(2016~)、文化庁 文化審議会文化政策部会委員、平成20年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞(芸術振興部門)

石田大祐 | いしだ・だいすけ | 東京都現代美術館文化共生課

東京都渋谷公園通りギャラリー学芸員。専門は日本近現代美術史。信州大学大学院人文科学研究科修了。安曇野市役所職員、NPO法人 SCOP職員、あいちトリエンナーレ2016アシスタント・キュレーターなどを経て2017年より現職。主な企画として「第13回まつしる現代美術フェスティバル」ものとしてあるかたち(長野県、2014年)、「移動する港 I 豊かな不都合」(東京都、2018年)など。これまで空店舗や公園など美術館ではないところが主な現場でした。来場される方が作品を見て、人と話せる場づくりを目指しています。美術とほかの領域が交わることに関心があります。

中崎透 | なかざき・とおる | アーティスト

1976年茨城生まれ。美術家。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程満期単位取得退学。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成し、ユニットとしても活動。2007年末より「遊戯室(中崎透+進藤水城)」を設立し、運営に携わる。2011年よりプロジェクト FUKUSHIMA! に参加、主に美術部門のディレクションを担当。

吉本光宏 | よしもと・みつひろ | ニッセイ基礎研究所 研究理事

東京オペラシティ、いわきアリオス等の文化施設開発、東京国際フォーラム等のアートワーク計画などのコンサルタントとして活躍。文化政策、創造都市、オリンピックと文化など幅広い調査研究に取り組む。現在、文化審議会委員、東京2020組織委員会文化・教育委員、東京芸術文化評議会評議員、(公社)企業メセナ協議会理事など。

長島 確 | ながしま・かく | ドラマトゥルク、フェスティバル/トーキー ディレクター

日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、様々な演出家・振付家の作品に参加。近年は演劇の発想やノウハウを劇場外へ持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に関わる。主なプロジェクトに「アトレウス家」シリーズ、「つりかた研究所」(ともに東京アートポイント計画)、「←(やじるし)」(さいたまトリエンナーレ2016)、「まちと劇場の技技交換所」(穂の国とよはし芸術劇場PLAT)など。共著に『〈現代演劇〉のレッスン』、訳書にベケット『いび最悪の方へ』、『新訳ベケット戯曲全集』(監修・共訳)ほか。東京藝術大学特別招聘教授。2018年よりフェスティバル/トーキーのディレクターに就任。



② 文化 × 福祉 × 街づくり ~ 変わる街、変わる福祉、変わる社会 ~

世界でも例をみない超少子高齢化社会の日本。その中で、医療、福祉は大きな変化の時を迎えています。病気や障害は取り除くものからうまく付き合っていく時代へと変わってきました。そうしてそうした人たちが活躍する場が様々な人たちが交流しやすい中心市街地にあるのではなか。その可能性を考えます。

13:30 ~ 14:00 | 「たけし文化センター連尺町をどうして浜松の中心市街地につくったのか」

久保田 翠 | くぼた・みどり | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 代表理事

14:00 ~ 15:00 | 「浜松市中心市街地レポート(経産省中心市街地活性化調査事業の発表)」

経済産業省の補助事業として「浜松市連尺町を中心としたソーシャル・インクルージョンによる拠点形成に向けた調査事業」を行いました。障害者だけでなく、高齢者、外国人、若者、子育て中の母親等へのアンケート、ヒアリング調査、そしてまちなかにおけるコミュニティスペースのマッピング調査から浮かび上がったものから、新しいまちのビジョンを考えます。

発表者 | クリエイティブサポートレッツスタッフ

15:00 ~ 17:00 | 「地域包括ケア・地域連携と街づくり~たけし文化センター連尺町の可能性~」

高齢化と医療の発展によって人が100歳まで生きる時代となりました。病気は根治するものからうまく付き合っていくものとなり、認知症の高齢者の増加は地域全体の価値観を変え始めています。そして、高齢者、障害者、クリエイター、若者が圧倒的に交流しやすい中心市街地で、何が起せるのか。地域包括ケアの視点から考察します。

堀田 聡子 | ほった・さとこ | 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授、認知症未来共創ハブ代表

東京大学社会科学研究所特任准教授、ユトレヒト大学訪問教授等を経て現職。より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援及び加速に取組み、社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会、地域包括ケア研究会、地域共生社会研究会等において委員を務める。中学生の頃より、おもに障害者の自立生活の介助を継続、訪問介護員2級/メンタルケアのスペシャリスト。博士(国際公共政策)。

野崎 伸一 | のざき・しんいち | 厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長

東京都出身。1999年に厚生省入省。児童家庭局、米国留学、医政局、障害保健福祉部、外務省出向、健康局などを経て、2016年に社会保障担当参事官室政策企画官、2018年7月から現職。これまで「地域共生社会」のコンセプトづくりや政策立案に関する省内の総括の傍ら、全国に足を運び、地域の実践に学ぶ日々を送っている。

飯田 大輔 | いいだ・だいすけ | 社会福祉法人福祉楽団理事長

1978年千葉県生まれ。東京農業大学農学部卒業。日本社会事業学校研究科修了。千葉大学看護学部中途退学。千葉大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程修了(学術)。2001年、社会福祉法人福祉楽団を設立。特別養護老人ホーム等の相談員や施設長などを経て、現在、理事長。2012年、株式会社恋する豚研究所設立、現在、代表取締役。京都大学こころの未来研究センター連携研究員、千葉大学大学院非常勤講師、東京藝術大学非常勤講師。介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士。

久保田 翠 | くぼた・みどり | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 代表理事

